

熊本地震からの復旧・ 復興に向けて

熊本県知事
蒲島 郁夫



熊本地震の発生に伴い、国をはじめ全国の都道府県や市町村、消防本部、更には医療機関等の皆様におかれては、発災直後から本県へ応援に駆け付けていただき、感謝申し上げます。

また、全国の皆様からの義援金や救援物資、ボランティア等のあたたかいご支援を賜り、心からお礼申し上げます。

熊本地震は、阪神・淡路大震災と同規模の震度7の揺れが28時間以内に2回発生するという、歴史上、例を見ない大規模災害でした。そのような中、本県では発災と同時に災害対策本部を設置し、消防、警察、自衛隊などの各関係機関との協力・連携のもと、昼夜を問わない人命救助活動が行われ、延べ1,700人以上の尊い命を救うことができました。

一方で、81名の尊い命が失われました。また、熊本都市圏を中心に、各市町村において全壊8,351棟を含む16万棟近くの家屋被害が生じています。（数値は平成28年7月19日時点）また、熊本県のシンボルである熊本城は傷つき、雄大な風景が魅力的な阿蘇地域も至る所で土砂災害が発生し、幹線道路が寸断されるなど、広範かつ甚大な被害を受けました。発災から3か月が経過しましたが、今もなお続く余震や梅雨期の大雨等による被害等、多くの方が、先行きの見えない不安の中で、避難所や自宅での生活を送られています。

このため私は、今回の復旧・復興にあたって「被害に遭われた方の痛みを最小化する」、「単に元にあった姿に戻すだけでなく、創造的な復興を目指す」、「復旧・復興を熊本の更なる発展につなげる」という「復旧・復興の3原則」を示しました。そして、この3原則を具現化するため「くまもと復旧・復興有識者会議」を開催し、当該会議での提言のもと、庁内に復旧・復興本部を設置し、8月2日に「復旧・復興プラン」を策定しました。今後は、この計画に基づき、スピード感を持って、各種施策に取り組みで参ります。

また、今回の地震の教訓を、次の災害に活かしていくため、今回の災害対応についての検証を行い、その結果を本県のみならず、全国へ発信し、次の世代に伝承していくことが、私たちに課せられた使命であると思っています。

熊本の復活・再生には多くの時間を要し、その行程は平坦なものではありません。しかし、私は「逆境の中にこそ夢がある」との信条のもと、県民の皆様と一緒に「チーム熊本」として、この難局を乗り越えて参りますので、今後とも皆様の応援をよろしくお願ひします。